	スカ (恐情) 厚吉用 阮内標準診療計											
	患者氏名						年 日	月日	E(歳)	身体疾患		
	忠古氏石						+ 7	7 1	_ (pgsc/	既往歴		
	担当者サイン	主治医		看護師		精神保健福祉士			作業療法士		その他の 担当者	

目標 入院形態

	入院1週目	入院2週目	入院3週目	入院4週目	入院5週目	入院6週目	入院7週目	入院8週目	入院9週目	入院10週目	入院11週目	入院12週目
	実施項目 口身体疾患の確	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目	実施項目
	認 (他科医師との連 携)											
医師 (通常の診察は 除く)	□入院治療・行動制限の同意取得 (行動制限は必要時)	□入院形態・行 動制限の見直し		□入院形態・行 動制限の見直し			□入院形態・行 動制限の見直し				□入院形態・行 動制限の見直し	
	□治療状況の確認と対処											
看護師	□隔離している 場合、精神症状 の評価※3 □睡眠(自己・看 護師評価) □生活自立度自 己チェック※4	□隔離している 場合、精神症状 の評価※3		□生活自立度自 己チェック※4			生活援助 口生活自立度自 己チェック※4 口退院後の生活 について(2か月 で退院する場 合)				生活援助 口生活自立度自 己チェック※4 口退院後の生活 について(3か月 で退院する場 合)	
精神保健福祉士	本人、家族等より下記事項を確認し、その評価を行う関係機関への連絡・調整況の日経生活環境の開整との問題を表示である。	□社会資源 チェックリスト作 成※6		口社会資源 チェックリスト作 成一利用サービス の確認(本人・家 族) 口関係機関との 連携			口関係機関との連携				口関係機関との連携	
							(2ヶ月で退院する場合) □場院支援 チェックリスト※7 □退院後の習慣 スケジュール確 認(本人・家族)				(3ヶ月で退院する場合) る場合) 可見院支援 チェックリスト※7 口退院後の習慣 スケジュール確 認(本人・家族)	
	□入院時患者・ 家族等から服薬 状況を聞き取り	□服薬指導(薬 の説明・副作用 の有無確認)		□服薬指導			□服薬指導 □退院時患者・ 家族服薬指導(2 か月で退院する 場合)				□服薬指導 □退院時患者・ 家族服薬指導(3 か月で退院する 場合)	
薬剤師等※1	口持参薬チェック ク 口薬剤の副作用 等の評価※8	□薬剤の副作用 等の評価※8 □処方内容/量 の確認神病薬を 処方されている 場合は、クロル プロマジン(CP) 換算を確認		口薬剤の副作用 等の評価※8			□薬剤の副作用等の評価※8 □処方内容/ の確認 □抗されていた 場合は、CP換を行い処方量を行い処方量を確認				□薬剤の副作用 等の評価※8 □処方内容 量 の確認 □抗精神病薬を 場合は、CP換を行い処方量を 確認	
公認心理師	□精神症状の評 価 ※9	□精神症状の評 価 ※10		□精神症状の評 価 ※11			□精神症状の評 価 ※12				□精神症状の評 価 ※12	
公認心理師							□WAIS-Ⅲ(必 要時)				□WAIS-Ⅲ(必 要時)	
作業療法士等			集団作業療法導 入への説明、段 階的導入				精神科リハビリ テーションの確認				精神科リハビリ テーションの確認	
*2	□作業療法のオ リエンテーション □作業療法実施 計画立案	□作業能力評価 ※13		□作業能力評価 ※13			口作業能力評価 ※13				□作業能力評価 ※13	
医師·看護 師·薬剤師		□患者・家族と 共に治療方針の 決定※20		□患者・家族と 共に治療方針の 決定※20			□患者・家族と 共に治療方針の 決定※20			□患者・家族と 共に治療方針の 決定※20		
チーム 士・PSW・ 看護師・薬 剤師	家族への家族教 室案内	会社・家族への心理教育		家族への心理教 育案内	会社・家族への心理教育			会社・家族への心理教育			会社・家族への心理教育	
全職種	□退院前訪問指 導 ※14	□地域移行支援 カンファレンス※ 15		□地域移行支援 カンファレンス※ 15	□退院前訪問指 導 (2ヶ月で退院す る場合)※18		□地域移行支援 カンファレンス (2ヶ月で退院す る場合)※17	□退院前訪問指導(2ヶ月で退院 する場合)※19	□退院前訪問指 導 (3ヶ月で退院す る場合)※18		□地域移行支援 カンファレンス (3ヶ月で退院す る場合)※17	□退院前訪問指導(3ヶ月で退院 する場合)※19

^{※1} 薬剤師等、病臓や副作用が評価出来る者
※2作業療法士等、作業遂行機能の評価出来る者
※2 作業療法士等、作業遂行機能の評価出来る者
※2 作業強行機能の評価出来る者
※2 作業遂行機能の評価出来る者
※2 作業遂行機能の評価出来る者
※3 隔離を必要とする場合は、看護師もHAM-D、YMRS等、これに準じた評価ができるものを用いて評価を行う
※4 生活自立度自己チェックとは、食事、排泄、睡眠、保清、身体状態、精神状態、対人関係等の項目をチェックするもの
※5 関係機関とは適院大診療所、相談支援事業所、生活保護担当者等を指す
※6 社会資源とは年金、精神障害者手帳、自立支援、養育手帳、介護保険、障害認定等の項目をチェックし、今後利用するものが確認できるもの
※7 退院支援チェックリストとは、帰宅先の確認、通院医療機関の確認、自立支援、手帳等の利用確認、今後のキーパーソンの確認、必要関係機関等の項目をチェックするもの
※8 受薬剤副作用の確認はDAI-10、SAI-J、DIEPSS等、これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※9 HAM-D、YMRS、MADRS、コンビア自教重大度評価尺度、SCID-II等、これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※11 HAM-D、YMRS、MADRS、コンビア自教重大度評価尺度等、これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※11 HAM-D、YMRS、MADRS、コロビア 等。これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※11 PAM-D、YMRS、MADRS、コロビア 等。これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※11 PAM-D、YMRS、MADRS、コロビア 等。これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※11 PAM-D、YMRS、MADRS、コロビア 等。これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※13 POMS、WCST等、これに準じた評価が出来るものを用いて評価を行う
※14 入院前の生活環境把握を行う
※15 中域教育を行う表すでは、まますとは評価が出来るものを用いて評価を行う
※16 疾患に対する教育は、患者及び家族に対して、4週間かけて統合失調症の症状、注意サイン、薬、社会資源についての教育等を行うもの
※17 ※15 に加えでラリーチや体験的の、計価者護も検討
※17 ※15 に加えでラリーチや体的の、計価者護も検討
※18 退院後に起こりうる問題の対処法の確認
※19 退院後の具体的環境調整を行う
※20 自己決定への支援(内服、金銭等)